

超音波はここまで進んでいます。

山内産婦人科医院(宮下) 山内 正大

僕が医者になってからのこの十数年で産婦人科を取り巻く医療もずいぶん変わりました。なかでも超音波の進歩は目を見張るものがあります。父が超音波で博士号を得たこともあり、僕もこの分野には特に関心がありました。4D超音波の普及も進み、さらなる新技術が開発され、より詳細で精度の高い診察が可能となり、正常胎児の評価および胎児異常の出生前診断も飛躍的に向上しました。

【4D超音波画像】



妊婦健診で行われる超音波検査には、通常のものとは別に胎児の形態異常診断を目的とした「胎児超音波検査」というものがあります。これはすべての妊婦に行うように位置づけられて



はおらず、また明確な取り決めもされてはいません。よって各施設でその方法や内容が違います。

検査時期は、妊娠10〜13週、18〜20週、28〜31週が推奨されています。各時期に合わせて胎児心疾患の有無や全身所見、頭部・腹部所見などを慎重に観察します。異常が疑われた場合は、程度に応じて高次医療施設(新生児科を備えた周産期センター)に胎児期の内に紹介します。胎児期に発見できないものもあり、出産後に紹介となる場合もあります。診断以外にも技術の進歩には楽しい一面もあります。4D超音波の画質向上によつて胎児のよりリアルなイメージを抽出することが可能になりました。妊婦自

身や家族にとつて胎児をより身近に感じ、妊娠中や出産後の不安を軽減するのに一役買ってくれるものと思います。かくいう僕自身も毎回診察しながら癒されています。

胎児期に多くのことが分かることは、妊婦をはじめ家族にも不安や混乱を招くことがあります。その診断に対して十分な説明とカウンセリングが必要と考えます。そして胎児診断のみならず医学の発達には、生命に対する倫理的問題を多く含みます。令和を迎え、これからはますますネット上では多くの情報が飛び交い、さまざまな考え方や価値観がある中で患者さん1人ひとりと向き合い、正確で誠実な診療を行いたいと思います。



余暇のひととき

二名短歌会

五月雨の晴るる若葉の里山に黄の鮮やかに推
の花群 金谷 幸夫
花畑ポピーマーガレット金盞花ミニばらも咲
く通ひて飽きす 善家キクエ
見渡せる向ひの山は櫻散り杉山の芽盛り上り
見ゆ 善家 聖子
四つ鍬も三つ鍬までも重くなり手鍬片手に畑
の広し 安波 五月
申し訳ほどの雨なり野菜にもわが心にも足ろ
ふほど降れ 高山 幸子

葉月句会

御立ち台の新天皇や風薫る 村重瑠璃子
葉桜や嵯峨あだし野の仏たち 佐藤 節子
花蜜柑夜目にも白く香りけり 三浦 信子
海よりの風を馳走の夏座敷 池田 厚子
掬ひ得ずおまけの金魚貫ひけり 中里ひな子
ひねもすや蜜柑の花の香り満つ 若松 敬子
貝風鈴ささやく如く鳴りにけり 三原 美加

洪柿句会

ネックレスに諸の視線や更衣 赤松 彌介
行春や令和となるぞ明日からは 上甲 正志
雨蛙我が裏庭を住処とし 平野 青流
役場まで杖を頼りの薄暑かな 財前 溪子
新茶汲む二人の生活山しじま 林 妙子
吹く風や夏来たるらし城下町 若山東望崇
葉桜や鎮守の杜の縄土俵 小島 和子
更衣児童も教師も白き襟 中平 豊念

わかば女性川柳会

人救う嘘には神も目をつむり 細川 明江
生きていく度に小さな嘘が増え 松浦 清美
集会所孤独集めて今日も湧く 松本志津子
生きざまを示した父の武骨な手 水野すみ子
定年日ラストを飾る紙吹雪 薬師神照代